



中央中だより

令和5年5月17日

TEL 042-473-8881・特支8814 FAX 042-472-7999

教育目標：共に生きる喜びをつかもう。

・進んで学ぶ ・人を思いやる ・体力をつける

行動目標：自主・自律・自治・表現

自己決定する場の大切さ

校長 齋藤 実

中央中学校は生徒の学習意欲を高めることを目標に授業改善に取り組んでいます。東久留米市教育委員会指定研究校として「情報活用能力の育成」をテーマにして進める中で、生徒の意欲を高めるために、授業の中で「情報の活用」をいかに実現するかに重点を置き実践しています。授業はこれまで教師主導で講義型が多く見られました。この場合生徒は受け身となります。話を聞く側の生徒の意欲や理解の仕方はさまざまです。そこで、まず50分間の授業で10分間を生徒が活動する場面を設定することから始めています。たとえば教師が問いを出します。次に個人で自分の考えをまとめます。次に周りの人と意見の共有を図ります。そこで話し合った結果を発表するという流れになります。また、調べ学習を行う場合もあります。このとき大切なことは、個人が活動することです。自分の考えがなかなか出せない人も意見を共有する中で友だちの考えの「まね」や「参考」にしていけます。大事なことは、自分で決定することです。授業では自己決定ができる場面を大切にします。今は教科書の内容を教師が整理し、生徒に伝える内容が情報となりそれを活用する授業になっていますが、徐々に情報を得る作業まで発展をさせたいと考えています。次にタブレットの活用です。紙の使用を削減するために、一日の連絡、生徒総会の議案書、ワークシートなどデータ化しています。また、授業の振り返りをタブレットで行い、文章化し、教師の側も授業の目標をどれだけの生徒が達成しているかを把握することができます。10分間の生徒の学習活動を生かすためにも、次の課題は、授業の目標の設定の工夫と振り返りとして取り組みます。



さて、先週中間テストが終わりました。1年生にとっては初めての中学校でのテストです。中間テストを通して、家庭学習の習慣やこの1ヶ月の学習の振り返りができることを目標にしています。これから解答用紙が返却されます。どこができて、どこができなかったか。できなかった問題をもう一度模範解答と比べて確認してください。不正解となった問題を中心に「なぜ、間違ったのか」「どうすれば間違わなかったのか」を教訓として言語化してみましょう。（教訓帰納といわれています）。言語化した教訓を自分自身の思考過程に関するメタ認知（自分自身の認知状態を一段上のレベルから認知する）的知識として蓄積すると、問題解決力の向上に結びつきます。

昨日6月3日（土）の運動会に向けて結団式を行いました。異学年の交流や仲間と協力して取り組む中で、居場所づくり、絆作りとなる行事にしたいと思います。今年の運動会は、来場の人数制限なく保護者の皆様に参観いただきます。楽しみにしてください。

～4月15日(土) セーフティ教室～

学校公開日に東久留米市情報教育支援員 渡邊 富士夫さんをお招きして、学年ごとにセーフティ教室を行いました。「情報活用能力」の一つに情報モラルの育成があります。タブレット以外にもスマートフォンをはじめ、たくさんの情報機器を取り扱う機会が増えている生徒にとって、これからの情報化社会に対応できる人材の育成が求められています。より身近になっているだけに情報の取扱い方、特に発信することの危険性などについて講演をしていただきました。保護者の方にも参観していただき、学校と家庭と協力して育んでいきたいと思ひます。



～5月12日(金)「読売新聞東京本社 出前授業」[1年生・7組]～

読売新聞東京本社教育ネットワーク事務局専門委員 石橋大祐さんを講師にお招きして「記事を書くコツ」と「見出しの付け方」について出前授業を行いました。話しの訊き方(取材の仕方)や見出しの大切さを学び、これからの総合的な学習の時間で取り組む探究的活動のスキルを身に付けることができました。また、中学校に入学して初めてゲストを迎える授業でしたが、学級代表が司会進行となり生徒が主体的に活動した授業でした。



～5月8日(月)令和5年度生徒総会～

全校生徒が体育館に集まり、生徒総会を行うことができました。コロナ感染症拡大時期には、放送やオンラインを用いてモニターを通した開催でしたが、一歩ずつ通常の活動を取り戻してきています。クラス目標を発表し、1年間の決意を新たにしました。

